

帯広市人口ビジョン 概要版

I はじめに

○策定の背景 国では、人口減少・少子高齢化が進行する中、2014（平成26）年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、国と地方が総力を挙げて地方創生や人口減少克服に取り組む上での指針となる「まち・ひと・しごと創生 長期ビジョン」と、地方創生のための施策の基本的方向や具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生 総合戦略」を閣議決定したところ。

これを受け、帯広市でも、人口の現状を分析し、将来の目指すべき方向を示す「帯広市人口ビジョン」を策定したものの。

○位置づけ 効果的な人口対策を企画立案する重要な基礎資料

○対象期間 2015年～2065年

II 人口の現状・分析

1 人口動態の分析

- 自然動態
 - ・出生数の減少と死亡数の増加により、減少幅は拡大傾向（2018年 △655人）
 - ・合計特殊出生率は2018年で1.32と、人口を維持する水準である2.07を下回る
 - ・主要因は未婚化・晩婚化の進行
 - ・経済面の不安、出会いの少なさ、子育て後の再就職や仕事と子育ての両立困難などが背景
- 社会動態
 - ・転出超過が拡大傾向（2018年 △132人）
 - ・20代後半男性で転入超過、過去20年間、傾向が継続しているのは帯広・苫小牧のみ
 - ・女性は過去20年間、20代前半を除き40代まで概ね転出超過傾向、地元離れは全国的傾向
 - ・東京・札幌への転出超過が拡大、進学・就職に伴う移動が主要因
- 十勝の現状
 - ・人口が増加している石狩管内を除き、人口減少率が道内で最小
 - ・釧路など周辺管内から転入超過が継続、十勝の経済力や交通ネットワークの整備などが背景
 - ・大都市圏への転出超過は、大学進学率の上昇、大手企業志向、就労環境の相違などが背景
- 在住外国人
 - ・2012年の466人から、2018年の758人へ、大幅に増加
 - ・国・地域別ではベトナムなどアジア諸国から、在留資格別では技能実習が大きく増加

2 将来人口の推計と分析

- 考え方
 - ・2018年社人研準拠推計は社会動態のプラスが大きく、実態と大きく乖離
 - ・2014年～2019年実績を基準に、現状のまま推移した場合と人口動態が改善する場合を推計
- 現状の場合
 - ・2013年社人研推計を上回るが、2018年推計や人口ビジョン策定時の将来展望人口を下回る
 - ・老年人口は2040年まで2割程度増加、その後減少し、2065年には2015年と同程度に
- 改善の場合
 - ・改訂前ビジョンの出生率まで改善すると、2065年で現状より20,347人増加
 - ・上記に加え転出入が均衡すると、さらに4,690人増加
 - ・長期的には、出生率の改善効果が、社会動態の改善効果を上回る
- 道内比較
 - ・帯広市の人口減少率は比較的安く、2065年には道内4番目の人口規模に
- 減少の影響
 - ・地域経済、雇用、保育・教育環境、コミュニティ、自治体財政などに幅広く影響
 - ・人口減少の抑制に加え、人口減少社会への適応や、変化を前向きに捉えたまちづくりが重要

III 人口の将来展望

1 将来展望に係るアンケート調査結果

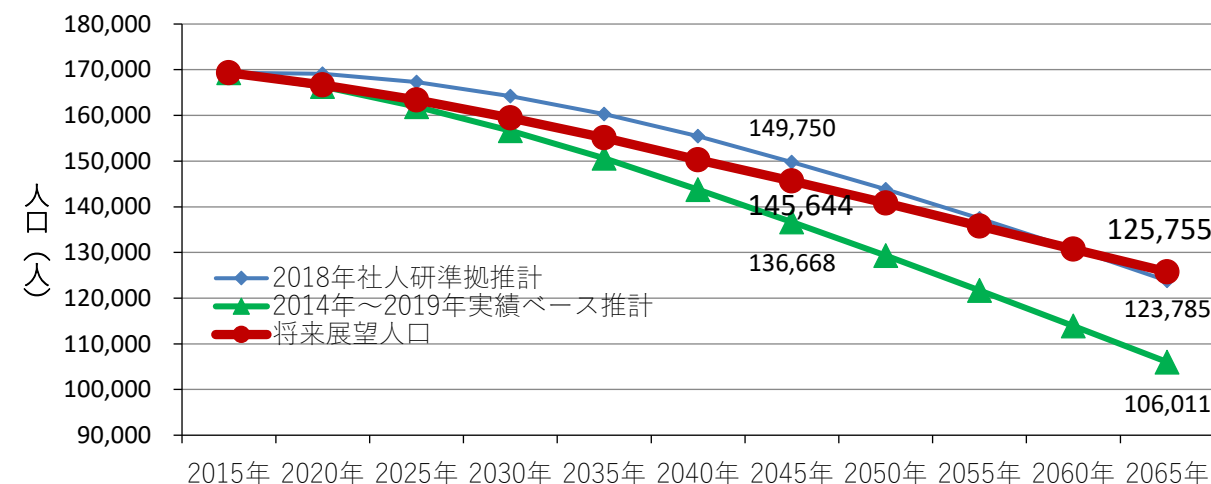
- 結果概要
 - ・全国の同様の調査結果と比べ、若者の結婚意向が強く、希望子ども数も多い
 - ・十勝・帯広への定住意識は、高校生で約7割、畜大生で約3割
 - ・地元以外での就職を希望する理由として、「他地域に良い条件の就職先がある」が最多
 - ・就職先の選択で重視する点は、給与などの制度、仕事のやりがいなど

2 目指すべき将来の方向

- 自然動態
 - ・結婚・出産の希望を叶えるため、安定した雇用や収入の確保、仕事と生活の両立が重要
 - ・地域資源を活かした産業振興を通し、希望が叶う社会環境の整備を目指す
- 社会動態
 - ・東京・札幌への転出超過の縮小のため、魅力ある仕事の創出が必要
 - ・地域の魅力を発信し、新たなひとの流れを創出

3 人口の将来展望

- 考え方
 - ・合計特殊出生率は、改訂前ビジョンの想定を5年遅れで達成（2020年1.42、2030年1.70、2040年1.935、2045年以降2.07）
 - ・社会動態は、2014年～2019年実績から改善を図り、10年間で100～150人の転入超過
- 将来展望人口
 - ・2065年で125,755人となり、社人研推計や実績ベース推計を長期的に上回る
 - ・高齢化率は2050年の37.5%をピークに減少、年少人口割合は上昇
 - ・各世代の人口が同程度となるバランスの取れた人口構成に



推計の名称	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
2018年社人研準拠推計	169,327	169,139	167,294	164,209	160,264	155,437	149,750	143,788	137,455	130,796	123,785
2014年～2019年実績ベース推計	169,327	166,285	161,923	156,652	150,631	143,767	136,668	129,313	121,682	113,910	106,011
将来展望人口	169,327	166,649	163,350	159,451	155,068	150,256	145,644	140,787	135,732	130,708	125,755